

## 14. 計算情報ファイルの操作

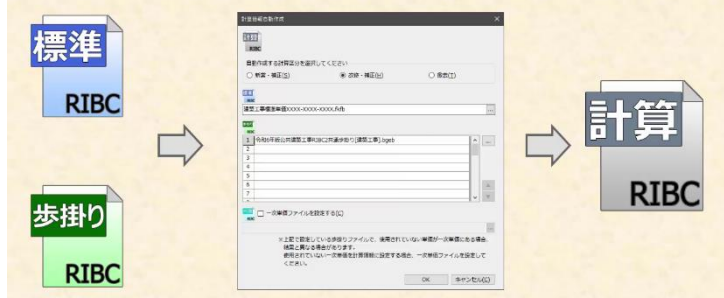
### ② 計算情報自動作成機能とは

#### 計算情報自動作成機能とは？

計算情報自動作成機能は、計算に使用する歩掛りファイルと、単価計算後の標準単価ファイルの情報をもとに、計算情報の設定を自動的に行うものです。

#### 計算情報自動作成機能とは？

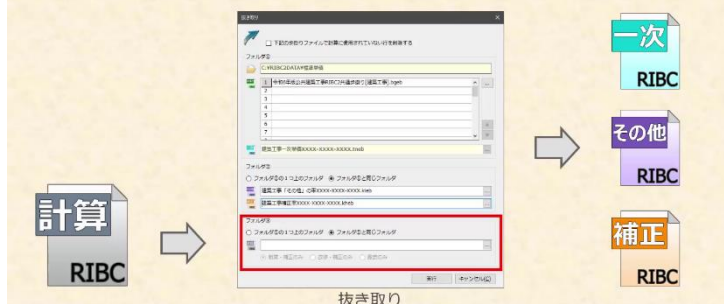
- ・ 計算に使用する歩掛りファイルと、単価計算後の標準単価ファイルの情報をもとに計算情報の設定を自動的に行う機能。



この機能で作成された計算情報ファイルを抜き取り時に使用すると、単価計算に必要な項目を一次単価ファイルや「その他」の率ファイル、補正率ファイルに登録しないようにできます。

#### 計算情報自動作成機能とは？

- ・ 計算に必要な項目を、一次単価ファイル、「その他」の率ファイル、補正率ファイルに登録しないようにできる。



また単価計算時に使用すると、自動的に設定された計算情報に基づいて単価計算を行うことができ、標準単価ファイルに出力したい項目のみ登録ができます。

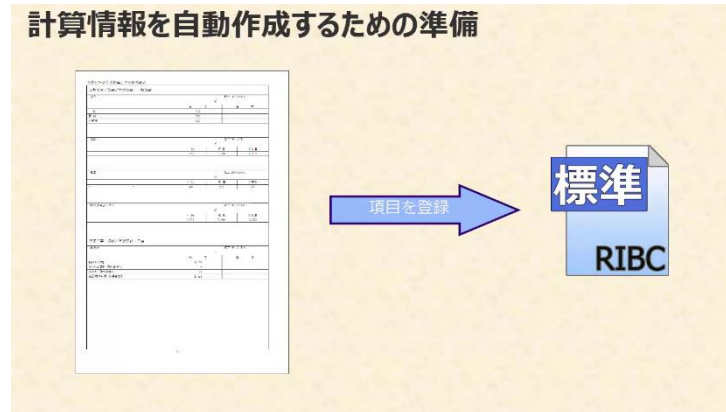
#### 計算情報自動作成機能とは？

- ・ 標準単価ファイルに出力したい項目のみ登録できる。

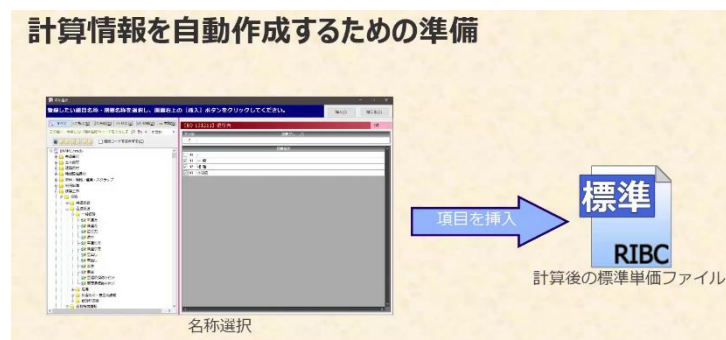
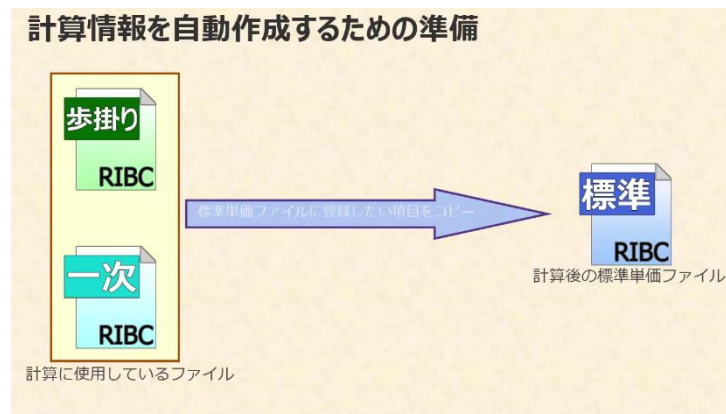


## 計算情報を自動作成するための準備

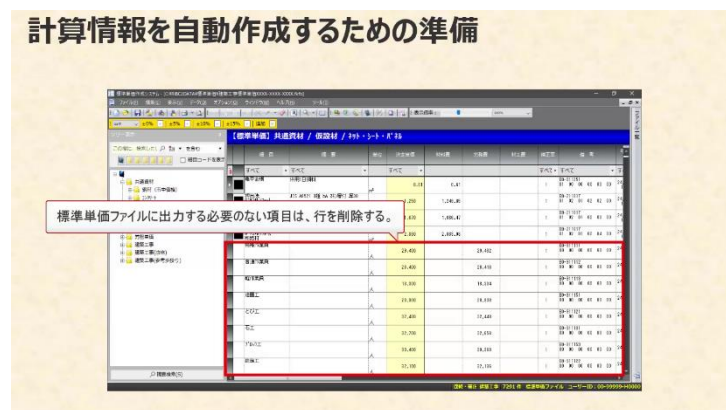
まず準備作業として、  
標準単価ファイルに出力したい項目を登録します。



この標準単価ファイルの作成方法は、既に計算済みの標準単価ファイルをベースに、新たに計算に使用している歩掛りファイルや、一次単価ファイルから項目を選んで登録をしたり、データメニューの名称選択から必要な項目を登録したりします。



なお、標準単価ファイルに出力する必要のない項目は、  
標準単価ファイルからすべて削除してください。



## 計算情報ファイルを自動作成する

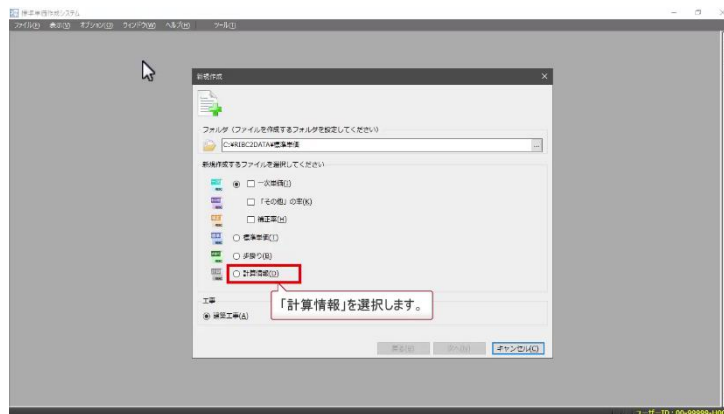
- ① 計算情報ファイルを新規に作成します。  
「ファイル」メニューをクリックします。



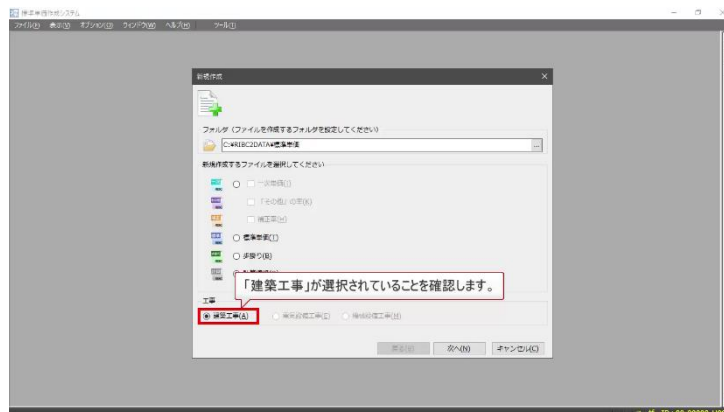
- ② 「新規作成」をクリックします。



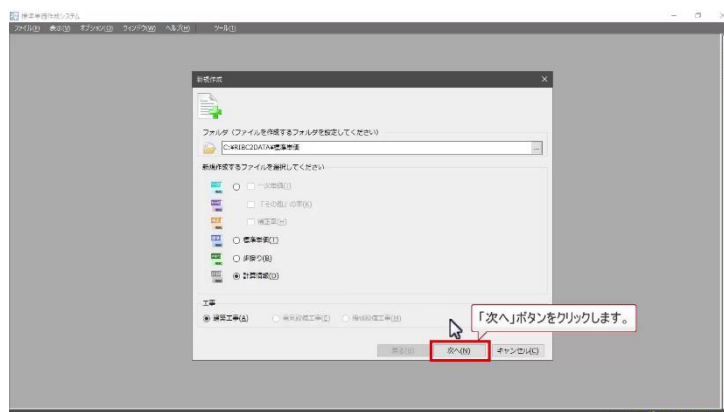
- ③ 新規作成するファイルの中から「計算情報」を選択します。



- ④ 新規作成するファイルの工種を選択します。  
ここでは「建築工事」が選択されていることを確認します。



- ⑤ 「次へ(N)」をクリックします。



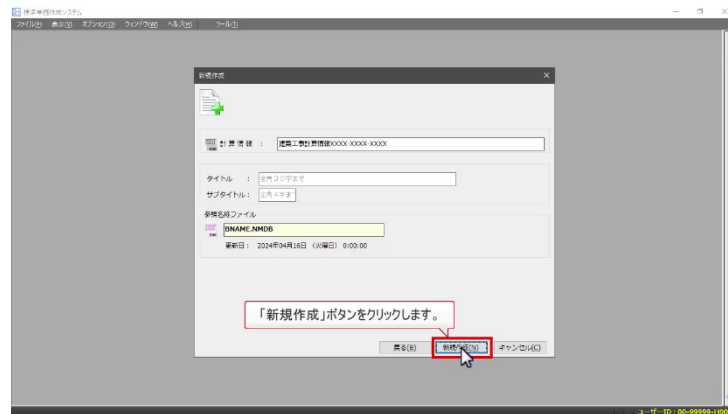
計算情報ファイル名は自動で設定されますが、  
 任意のファイル名に修正することもできます。  
 ここではデフォルト設定のまま操作を続けます。



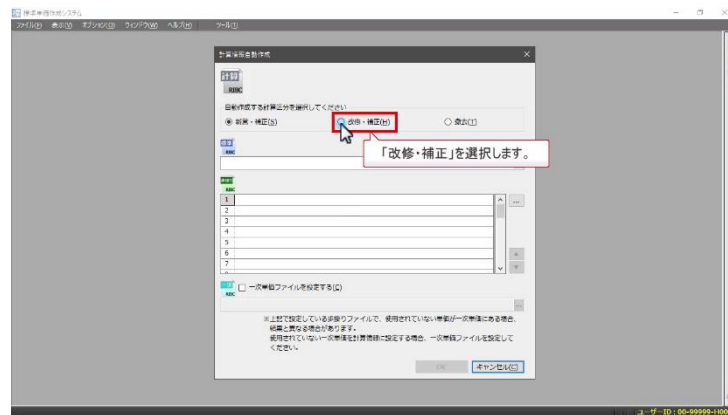
タイトル及びサブタイトルについては省略可能です。  
 必要に応じて設定をします。




⑥ **新規作成(N)** をクリックします。



⑦ 計算情報ファイルを新規作成すると、計算情報自動作成画面が表示されます。  
 初めに自動作成する計算区分を選択します。  
 今回は改修工事の標準単価ファイルに対する計算情報を設定します。  
 「改修・補正」を選択します。



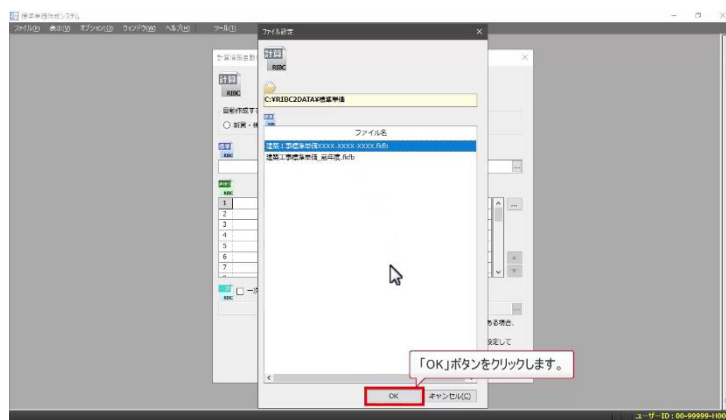
- ⑧ 次に単価計算後に出力したい項目が登録された標準単価ファイルを設定します。  
 をクリックします。




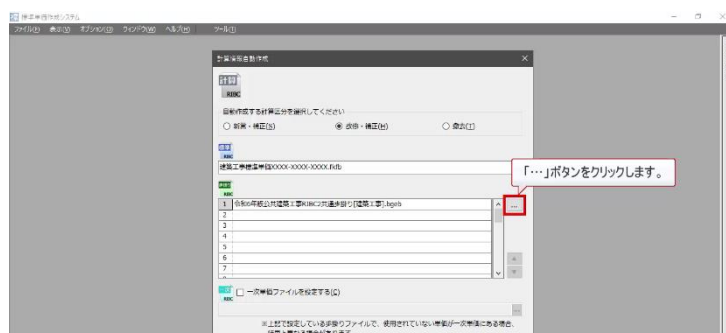
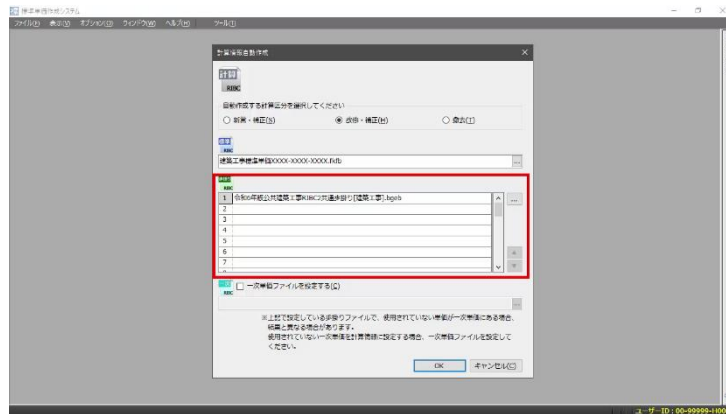
- ⑨ ファイル設定画面が表示されます。  
 ここでは先ほど計算をした「建築工事標準単価年月日時分」のファイルを選択します。



- ⑩  をクリックします。



標準単価ファイルを設定すると、単価計算のときの情報が反映され、  
 歩掛りファイルが自動で設定されます。  
 設定されていないファイルがある場合  からファイルを選択します。





なお、丸め処理については、自動的に設定されませんので、  
必要に応じて当該行を選択後、「編集」メニューの「丸め有無設定」をクリックします。

